

経済学部

教授 坂口 明義

現代経済には、2つの大きな貨幣の循環がある。1つは信用循環であり、中央銀行から銀行信用を経て民間経済に供給された貨幣が最終的に中央銀行に還っていく。もう1つは財政循環であり、中央銀行から政府支出を経て民間経済に供給された貨幣が最終的に中央銀行に還っていく。どちらも重要なのに、今の経済学では信用循環ばかりに目が向けられ、財政循環の研究は軽視される傾向にある。これに対してMMT（現代貨幣理論）は財政循環の研究を推し進め、「政府は貨幣に通用力を与えるために貨幣を納税手段に定めている」、「政府は集めた税金を支出しているわけではなく、むしろ支出した貨幣を徴税で回収している」等、常識を覆すような主張を行ってきた。本書はMMTの第一人者による解説書であり、大学の講義ではなかなか扱えない、経済学の新しい動きを学ぶことができる。かつては日本にもMMTのような経済の見方はあったが、いかんせん理論的練り上げが不十分であった。そのため、小泉政権の郵政民営化（財政循環に対する攻撃）に対して、抵抗する側の政治家や役人はうまく反論できなかった。やや残念ではあるが、今の日本の経済学はアメリカ発のMMTに学ばなければならない立場にある。「MMT」と名の付く日本の経済書は、ほとんど本書がベースになっている。自分なりの経済観を確立したいという人には、ぜひ本書を読んでほしい。



『MMT現代貨幣理論入門』
ランダル・レイ；
鈴木正徳訳
(2019, 東洋経済新報社)

【所蔵情報】

本館	資料ID	111175519
	請求記号	K/337.1/W92
靖国分館	資料ID	111182903
	請求記号	/337.1/W92/